



小中一貫教育ってどんな教育？その2

前は、小中一貫教育の学校では、学年段階を柔軟に運用できる事例について紹介しました。今回は、小・中の教員がそれぞれの授業に関わりやすくなることや、教育課程の連続性を活かし、実際に実践している小中一貫校の取組を紹介します。

小・中で授業の体制を工夫

- ◆ 9年間を見通し、継続性のある独自の学習
(地元の伝統工芸を学ぶ「ふるさと学習」など)
を計画的に行う。
- ※ 小中一貫の学校では、他の学校にはない新たな教科を
設けることができます。
- ◆ 小・中免許をもった教員がいることから、それぞれの専門性を活かした
教員が授業を行い(例えば、小学校の理科に中学校の理科専門の教員が
指導に入る教科担任制など)学力向上を図る。
- ※ 沼津市立静浦小中一貫学校では、小・中学校
教員が協力して、小学校1年生から系統的に
9年間の言語科(英語)の指導を行っています。
- ◆ 小学生と中学生の共同学習により、学習を効果的
に深める取組をしている。
- ※ 1年生の生活科と9年生(中3)の家庭科
を一緒に行っている学校があります。



9年間を通して指導を継続する

- ◆ 小中学校9年間の学びのスタイル(授業中の約束や家庭学習の取り組み
方)、生活習慣(学校生活の規律や家庭生活習慣)を1年生から9年生
(中3)までを通して計画的に指導し育てる。
- ◆ 「主体的で対話的な学び」の力を育成するため、
「聴き方」「話し方」を9年間の段階的指導を
通して着実に育てる。
- ◆ 9年間を通して継続的にキャリア教育(社会的・職業的自立に向けて、
必要な基盤となる能力や態度を育てる)を行う。



ご質問・ご意見は、東伊豆町ホームページの【お問い合わせ】か
東伊豆町教育委員会【電話】0557-95-6207 【〒】413-0411 東伊豆町稲取3354
【メール】kyouiku@town.higashiizu.lg.jp お願いします。